第２回　地域連携推進会議

日　時　令和８年８月 18 日（火）13:30～15:00
場　所　グループホームしら糸（富士吉田市上暮地 5-2-24）
出席者　当事者（入居者）
　　当事者家族（保佐人【健康科学大学講師】）：欠（別途、意見書提出あり）
　　地域関係者（白糸町民生委員）：欠
　　福祉・経営知見者（パルパル施設長）
　　行政（富士吉田市役所福祉課　保健師）
　　グループホームしら糸（サービス管理責任者　星野亜希子）
　　グループホームしら糸（管理者　三宅裕明）

1.構成員紹介

2.運営状況報告（別紙）
　福祉・経営知見者より、「賃借料支出が増額しているが、理由は何なのか」との意見があった。
　管理者より、「年度途中で、CATV 料金の増額があった」ことを回答した。

3.施設等・地域との連携について
　8/14　しら糸地区夏祭り：不参加
　8/15　西桂・花火大会：雨のため、アイスを食べながら利用者居室から観覧
　9/6　 富士吉田市総合防災訓練：参加予定

　福祉・経営知見者より、「当法人グループホームでは、夏祭りや町の旅行に参加している」との意見があった。また選挙に関しても、投票に対しての合理的配慮をしているとの意見があった。４月の統一地方選挙もあるため、配慮をしていくこととした。
　また当事者より、「この間（6/26）の地震が怖かった」との発言があった。
　当事業所では大雨の中、近隣に住む世話人が地震直後にグループホームを訪れ、状況確認を行った。
　行政担当者より、災害システムの起動についての意見があった。
　発災当日は夜間であったこと、また職員退勤後に初めは台風被害についての被災状況報告指示、その後の地震についても被災状況報告指示があった。その後、富士吉田市としては返信がなかった当法人に、土曜日午前 10 時過ぎに施設長への連絡および確認があった。
　翌日が休日であった場合など、いつまでに返信すべきなのかが持越し課題となる。
　福祉・経営知見者より、災害システム登録時に携帯メールの登録箇所があり、登録をした。ただし、外部リンクのボタンを押したくても押せない状況があり、結果 PC から報告をしたとの意見があった。
　サービス管理責任者からはこういった事態に備え、地域の防災訓練に参加しながら「いざという時の備え」にしていきたいと考えているとの意見があった。

　また当事者より、「（世話人の）畑の草取りに休みの日には行く。」との発言があった。

4.利用者の権利擁護について
＊本日急務のため、当事者家族より別紙意見書あり

グループホームの役割とその機能をどう考えていくべきなのか。
当事者家族より提出された、別紙についてそれぞれの立場で考えることになった。
当事者からは歳をとったとしても、「ここにいたい」という意見が聞かれた。

行政担当者からは、「富士吉田市にはグループホームが少ない。県外のグループホームの利用をする当事者もいる。家族からしても近隣で、住み慣れた地域での生活が望ましいと思う。それが本人も家族も安心で、すぐに行き来できる場所であればなおいいのではないか」また、「身体状況が変移し、障害福祉サービスから高齢者福祉サービスに移行したくても、金銭面で壁が高い状況になることも理解している」との意見があった。

施設入所では特例除外施設であることもあるが、地域生活を送るためのグループホームでは「本人の望む生活」が優先されるべきであるものの、（グループホームの）機能とその限界については安易に判断できるものではないと思われる。

福祉・経営知見者より、「利用者の権利で言うならば、食事のメニューをみて、そのメニューが自分の好きな物ではない場合、当法人グループホームでは３日前までにキャンセルを受け入れている。グループホームしら糸とは違い、外食をしてきてしまう利用者もいる。利用者それぞれであるが、若い利用者が多いのもあるかもしれない。今のままで今後も暮らせるとは限らないが、グループホームしら糸の状況も参考にしていきたい」

高齢化していく利用者の現況も見ながら、その年代に合わせた食事メニューの考察や配慮も支援者の主観や経験に捉われず、本人目線で検討していかなければならないという視点が必要であることを再確認した。

5.事業所内の視察